

平成8年度通常総会議案について

平成8年度通常総会は去る4月19日に開催され、以下の総会議案がすべて原案どおり承認されましたのでお知らせします。

平成7年度事業報告 (第1号議案)

・発表件数	124件
一般発表	98件
招待講座	3件
特別セッション	18件
ペーパーフェア	3件 (内部会報告 2件)
ソフトウェア	2件
・参加者数	384名
また、研究発表の合間をぬって、テニス大会が行われた。	

I. 事業の概要

1. 研究発表会

(1) 3月27日、28日の両日、広島修道大学において、第77回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ 「OR/ネッサンス」
- ・特別講演 (一般公開)

1) 日本人はアメリカにだまされている

ビル・トッテン (㈱アシスト 代表取締役)

2) 瀬戸内の森林の衰退と大気汚染 (酸性雨・霧を含む)

中根周歩 (広島大学 教授)

・発表件数	152件
一般発表	132件
ペーパーフェア	14件 (内部会報告 12件)
チュートリアルセッション	6件
・参加者数	317名

また、29日には海上自衛隊第一術科学校、日新製鋼(株)呉製鉄所を見学した。

(2) 10月16、17日の両日、埼玉県県民活動総合センターにおいて、第78回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ 「ORの実施」
- ・特別講演 (一般公開)

1) マルチメディアとこれからの経営

水野幸男 (日本電気(株) 特別顧問)

2) 日本の獨創性

有馬朗人 (理化学研究所 理事長)

2. シンポジウム

(1) 3月29日、中国電力(株)本店において、第33回シンポジウム「ファジィ数理計画法とその応用」を開催した。講演5件。参加者は43名であった。

(2) 10月16日、埼玉県県民活動総合センターにおいて、第34回シンポジウム「経営効率性評価-DEA法のフロンティアと応用事例」を発表会形式で開催した。発表件数10件。参加者は69名であった。

3. 特設研究部会 (数理計画法研究会)

(主査：茨木俊秀 (京都大学) 幹事：森戸晋 (早稲田大学)、田口東 (中央大学)、茨木智 (京都大学)、石井博昭 (大阪大学)、加藤直樹 (神戸商科大学)、福島雅夫 (奈良先端科学技術大学)、矢部博 (東京理科大学)、山本芳嗣 (筑波大学) メンバー：26名)
 月例研究会 (8回・東京)、RAMPシンポジウム、RAMPセミナー等の開催を通じて数理計画法の理論と応用に関する研究普及活動を行なった。また、会の運営にあたっては、若手研究者の育成のため、特別な配慮を行なった。

4. 研究部会・研究グループ

研究部会・研究グループ終了/中間報告

◎印 終了を示す
 *印 研究グループを示す
 ☆印 常設部会を示す

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内容
☆待ち行列	高橋 幸雄 (東京工業大学) 小林 和朝 (日本電気)	27名	9回	待ち行列における保存則、定常分布の裾の振舞に関する研究、ATM通信における呼接続制御、フロー制御に関する研究、および分散処理システムのジョブ/ソフトウェア配置の最適化の研究などが報告された。
☆OR/MSとシステム・マネジメント	山田 善靖 (東京理科大学) 難波 和明 (東京理科大学)	24名	4回	「経営意思決定にOR/MSや情報技術がどのような影響を与えるかを理解し今後OR/MSやIT技術を経営意思決定の場でどのように活用したらよいかの検討をする」ことにある。特に集団意思決定の集団心理過程の研究、集団意思決定のためのOR手法の開発について研究した。
◎動的計画法	小田 中敏男 (北海道情報大学) 蔵野 正美 (千葉大学)	11名	10回	本部会は約30年以上の歴史を持ち、一貫してDPとその周辺の諸問題を取り上げて今日に到った。本部会は一応今年で終了するが、研究活動は今後も継続する予定である。今年度は研究会10回、シンポジウム1回行った。

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内 容
◎システムと最適化	一 森 哲 男 (大阪工業大学) 森 田 浩 (神戸大学)	14名	3回	本年度は社会システムを扱ったものが多かったが、これ以外にもさまざまな内容を含んでいる。社会システムとしては定数は正(議席配分と区割りの問題)を詳しく扱った。その他、在庫管理、資源配分問題などである。
◎ORソフトウェア	八 卷 直 一 (システム計画研究所) 宮 田 雅 智 (青山学院短大)	22名	9回	ORに有用なソフトウェアやアルゴリズムを紹介、あるいは研究することを目的として活動している。研究の内訳を大きく3つに区分し、それぞれで成果を期するように配慮した。(1)モデリング環境(2)ソフトウェアの知的所有権(3)電子メールサービス
◎組合せ最適化	久 保 幹 雄 (東京商船大学) 関 谷 和 之 (東京理科大学)	26名	7回	数理計画法を研究している国内(特に関東圏の)若手研究者間のつながりを深めるとともに、第一線で活躍されている先生方との縦の交流を築くことが主目的。第一線の先生方からは、チュートリアルとして貴重な経験を交えたお話を伺い、若手研究者と自由に討論するという構成で、幅広い参加者を得た。
◎合意形成・政策	荻 野 正 浩 (中央大学) 片 山 隆 仁 (防衛庁)	18名	10回	このたび部会終了に当たり、これまでの研究成果を資料としてとりまとめる。前半は合意形成に関する定義や時代背景・タイプ等の理論編、後半は各論として部会ページの所論を編集した。
◎マーケティング・サイエンス	木 島 正 明 (筑波大学) 西 尾 チ ヅ ル (筑波大学)	15名	8回	近年、POSデータ、パネルデータなどの大量のマーケティングデータの収集が可能になり、マーケティング分野の科学的な解析とりわけORの手法が見直されてきている。本部会では、マーケティング・サイエンス全般にわたる理論的な研究とともに、実務におけるいろいろなマーケティングの問題を議論する。
リエンジニアリング	梅 沢 豊 (東京大学) 山 下 達 哉 (富士短期大学)	22名	3回	製造業を主な対象とした前年度の研究を、サービス産業・金融機関まで広げて、リエンジニアリングの本質とこれからの経営に対してもつ意義、効果的な進め方、議題について検討した。
ファイナンスのOR	古 川 浩 一 (東京工業大学) 枇 々 木 規 雄 (慶應義塾大学)	26名	8回	ORの問題としてファイナンス理論を捉え、理論、実践の両方で研究成果を挙げよう活動を行っている。今年度も、オプション評価理論株式分析、ポートフォリオ選択問題などの研究分野に対して、16件の研究成果が発表された。
評価のOR	刀 根 薫 (埼玉大学) 上 田 徹 (成蹊大学)	15名	8回	8回のうち2回は学生の発表会に充てた。若干、応用よりも理論的発表が多かった。本研究部会員が中心となって第34回シンポジウムを開催。また、秋の研究発表会では研究部会の中間報告を行った。
ORリテラシー	高 井 英 造 (静岡大学) 垣 花 京 子 (家政学院短大)	24名	8回	目的は、OR的な思考方法の基本として身につけておくことにはどのようなものがあるのか、その習得にはどのような方法が適切なのかを研究すること。研究の結果は文科系学生のためのリテラシーテキストとして具体的な形で残すことを考えている。
意思決定とOR	菊 田 健 作 (富山大学) 中 島 恭 一 (富山県立大学)	22名	5回	北陸地方で、5回の研究集会を開催。各回とも20名前後の参加があった。ORに関する広い分野での研究交流を行い、発表内容としては意思決定、フuzzy理論、ファイナンスと経済関連、数理計画法、最適化、ネットワーク、待ち行列、スケジューリングに関するものであった。
離散系シミュレーション	中 野 一 夫 (構造計画研究所) 森 戸 晋 (早稲田大学)	28名	5回	あらゆるシステムの分析手法として有効性を発揮している離散系シミュレーション手法を特に応用面から捉え、モデル化の問題点、分析効果、市販されている離散系シミュレーション用のソフトウェア等を調査、研究していこうとするものである。
高校生のためのOR	若 山 邦 紘 (法政大学) 田 口 東 (中央大学)	18名	5回	高校生が興味を持つような題材を選び、易しくて面白い例題を作成し、テキストを作ろうとしている。高校数学教員との合同シンポジウムの開催、OR誌での特集、情報処理学での数理系カリキュラムシンポジウムへの参加など意欲的に活動を行っている。
最適化モデル分析とその応用	岩 本 誠 一 (九州大学) 川 崎 英 文 (九州大学)	26名	6回	平成7年4月から新しく開催が認められ、最適化モデル分析とその応用について経済学、応用数学、情報工学等の分野から研究発表を行っていた。主な内容は経済・工学における最適化数理モデルの分析と構成であった。
COMのための生産計画・スケジューリング	村 松 健 児 (東海大学) 西 岡 靖 之 (東京大学)	22名	10回	近年、生産計画とスケジューリングに関する関心が産学を問わず、著しい高揚をみせている。これらの研究を、新時代の製造業を総合的概念であるCOM(Computer Optimized Manufacturing)の視点から、分析し、整理して体系的に理解することを目的としている。
広域インフラストラクチャー計画に関するOR	高 森 寛 (青山学院大学) 栗 田 治 (慶應義塾大学)	13名	10回	一つの地域や国を越えて、多様な集団、グループ、パーティーが共有する公共的なインフラストラクチャーの計画に関連する諸問題を研究する。新しいインフラ創造の機会の発見、フuzzyビリティ分析、環境アセスメント、利害のコンフリクトと紛争解決のシナリオ、共通便益の評価などに関するOR研究。

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内 容
◎*日本の経営	上田 亀之助 (上田イノベーション研究所) 石井 允夫 (長野計器)	14名	11回	「経営」とは、人間集団がある目的達成のために、その環境の中でより良い状態を保ち、所期の効果を上げるようにする人間活動です。日本の場合、それは日本文化の中で行われますから、「日本の経営」であるべきです。
◎*情報ネットワークとその活用	根本 忠明 (和光大学) 小野 賢治 (電力中央研究所)	26名	9回	94年3月から2年間、情報・通信ネットワーク、特に、情報基盤(情報スーパーハイウェイ、CALSインターネット)、企業ネットワーク(電子メール、グループウェア他)を中心に研究してきた。
*高度情報化社会における交通・流通	忍田 和良 (朝日大学) 野末 尚次 (鉄道総合技術研究所)	12名	7回	高度な情報インフラが整備された社会では、交通・流通は大きなインパクトを被り、輸送企業・流通企業・一般企業を含めた総合的な再構築が不可避となるため、今後の展開・問題点等について討議した。
*電力OR	鈴木 道夫 (電力中央研究所) 大屋 隆生 (電力中央研究所)	25名	1回	電気事業とその周辺の実務家、研究者が集まり、規制緩和と電気事業経営、環境問題、デマンドサイドマネジメント、電力需要予測など電気事業の抱える問題への新しいORの理論、手法および実施に関する研究を行う

5. 普及活動

(1) 定例講演会

開催年月	テーマ	講師	参加人数	開催地区
7年5月	最近の「劇場としてのコンピュータ観」について	平田正敏	28名	九州
8年1月	①仕事情報によるスケジューリング・ルールの帰納的獲得-フロー・ショップ問題への適用 ②マーケティングサイエンスにおけるOR	諏訪晴彦 木島正明	18名	関西

(2) ORセミナー

・第1回

「実践的スケジューリングの方法」を平成7年6月1日、東京ガス(株)本社で開催した。参加者は53名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
実践的スケジューリングの体系	黒田 充 (青山学院大学)
現場の問題と教科書の数理	米田 清 (東 芝)
制約ベース推論とその応用	渡辺 正信 (日本電気)
シミュレーション技法活用の生産スケジューリング支援	井上 一郎 (京都産業大学)

・第2回

「数理計画モデルの応用 - 構築と解法と分析」平成7年12月14日、東京ガス(株)本社で開催した。参加者は57名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
数理計画モデルの概要と実際	大山 達雄 (埼玉大学)

題 目	講 師
モデル記述言語を用いた生産計画問題の解法	渡辺 展男 (広島県立大学)
市営バス路線決定問題に対する数理計画モデルの適用	三村 庄一 (横浜市)
非線形計画モデルの構築と解法	矢部 博 (東京理科大学)
株式ポートフォリオ最適化と数理計画モデル	竹原 均 (筑波大学)

(3) OR企業サロン

今年度も「業務革新- (リエンジニアリング) とトップのリーダーシップ」を統一テーマとし、梅沢豊(東京大学経済学部)をコーディネータとして開催した。今日的な経営の重要課題に関する話題を提供し、あわせて参加者相互の交流を深めることによって、大きな成果を収めた。(参加者延319人)

開催月日	テーマとゲストスピーカー	参加者
7. 5.11	中小企業金融公庫の業務改革 ○中小企業金融公庫 理事 竹内 建	101名
7.12.15	シリコンバレーの経営とスピード ○(株)日本経済新聞社 東京本社 編集局 産業部長 大谷 清 人生出合い ○西日本旅客鉄道(株) アサヒビール(株) 名誉会長 村井 勉 於：大阪	116名
8. 3.27	複合調整期の企業変革 ○(株)北海道銀行 取締役 地域企業経営研究所長 下川 哲央 大和ハウスの創業・成長・多角化 ○大和ハウス工業(株) 代表取締役相談役 石橋 信夫 於：札幌	102名

6. 刊行物

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 40 No. 3からVol. 41 No. 2まで12号(本文748ページ)を発行した。各号は特集を主とし、他のトップの視点、論文・事例研究、論文・

研究レポート、実践講座、教養講座、解説、学生論文賞受賞論文要約、研究部会報告等を掲載した。

- (2) 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 37 No. 4 から Vol. 38 No. 4 まで(585ページ)を発行した。本年度の投稿論文は95編 (再投稿45編を含む) で、掲載論文は37編であった。
- (3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集他 (略)

7. 40周年記念事業

平成9年5月に迎える創立40周年の記念事業基本計画を策定し、記念事業企画推進委員会を発足させた。

8. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力

- (1) 日本学術会議関連

日本学術会議経営工学研究連絡委員会 (経営工学研連) の構成学会として引き続き委員を派遣し、それらの活動に協力。6月30日には経営工学研連並びに関連5学会の共催による第11回シンポジウムを当学会が事務局を担当し、日本学術会議講堂において開催。164名の参加をみた。(以下略)

9. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「広域インフラストラクチャー計画に関するOR」研究部会を窓口を実施した。

10. 国際協力

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) を通じて、各国のOR学会との交流、協

力を図った。

- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の副会長選出国として、また、第3回 APORS国際会議開催国として、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORのVol. 46, No. 1~No. 6の国内頒布に協力した。
- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

11. 他学協会との交流

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・1995IEEEロボテックス・オートメーション国際会議 (日本ロボット学会他)
- ・第4回IEEEファジィシステム国際会議・第2回国際ファジィ工学シンポジウム (日本ファジィ学会他)
- ・1995年システムダイナミクス国際会議 (システムダイナミクス学会他)
- ・第25回信頼性・安全性シンポジウム (日本科学技術連盟)
- ・第14回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス (日本シミュレーション学会)
- ・SICEセミナー「離散系モデリングとシミュレーション」(計測自動制御学会)
- ・International Workshop on Biologically Inspired Evolutionary Systems (日本ファジィ学会)
- ・システム制御情報イブニングスクールチュートリアル講座「システム同定入門」(システム制御情報学会) (以下略)

12. 支部活動 各支部ごとに次のとおり活動した。

支部活動報告

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 役員会 1回 幹事会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回
研究会		研究会 2回	研究会 6回	研究会 20回	研究会 8回	研究会 3回
講演会	講演会 2回	講演会 1回	講演会 2回	研究講演会 3回 定例講演会 1回 記念講演会 1回	講演会 3回 シンポジウム 1回	講演会 4回
出版			支部ニュース 8回 アブストラクト集 1回 総会議案 1回	支部 News letter 4回		支部ニュース 5回
その他	情報処理北海道シンポジウム'95協力	RAMPシンポジウム 1回	3学会中部支部研究交流会 1回			見学会 1回

13. 表彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞
第24回文献賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
・該当なし
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞
第21回普及賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
イ. 御園生善尚（東北大学名誉教授）ロ. 矢部 眞（工学院大学名誉教授）
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
第20回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
日本電信電話㈱研究開発本部
常務取締役研究開発本部長 宮脇 陸
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞
第16回事例研究奨励賞の選考および第11回事例研究奨励賞ソフトウェア部門の選考を行い、下記のとおり決定した。
第16回事例研究奨励賞
・拡張AHP手法を利用したリニューアルのコストベネフィット分析
オペレーションズ・リサーチVol. 40, No. 8
木下栄蔵（名城大学）、宮坂房千加（山武ハネウエル㈱）、石川良光、東 幸彦（山武計装㈱）
・DEAに基づく限界費用価格形成：NTT電話基本料金に関する一考察
オペレーションズ・リサーチVol. 40, No. 12
末吉俊幸（東京理科大学）
・通信事業におけるDEA法の適用事例
オペレーションズ・リサーチVol. 40, No. 12
矢田 健、中山竜起、井上正之（日本電信電話㈱）
第11回事例研究奨励賞ソフトウェア部門
・該当なし
- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞
第13回学生論文賞の選考を行い、下記のとおり決定し、授賞を行った。
・線形不等式で定義された多面体の最小包囲球問題を解くアルゴリズム
朝岡慎治（筑波大学・学士論文）
・税関事後調査部門における立入輸入者選定モデルの構築に関する研究
岩崎誠司（埼玉大学・修士論文）
・Efficient Algorithms for Location Problems on Tree Networks
塩浦昭義（東京工業大学・修士論文）
・最終ダブルオファー仲裁の均衡戦略について
中村伸也（京都大学・学士論文）
・Equivalent Differentiable Unconstrained Optimization for Complementarity Problems
山下信雄（奈良先端科学技術大学院大学・修士論文）

II 処務の概要

1. 役員等に関する事項

理事 非常勤 監事 非常勤
定数：12人から16人（現在：16人） 定数：2人（現在：2人）
任期：2年 任期：2年

2. 職員に関する事項（略）

3. 会議に関する事項

(1) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
7.4.21	1. 平成6年度事業報告の件 2. 平成6年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成7年度事業計画の件 4. 平成7年度予算の件 5. 平成7年度・8年度役員選任の件 6. 名誉会員推薦の件 学会賞の発表と表彰・新フェローの紹介	承認 " " " " "

(2) 理事会（略）

(3) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	結果
8.4.5	1. 平成7年度事業報告の件 2. 平成7年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成8年度事業計画の件 4. 平成8年度収支予算の件 5. 平成8年度・9年度役員候補者選任の件 6. 平成8年度・9年度評議員候補者選任の件 7. その他	承認 " " " " "

(4) 支部長会議（略）

(5) 委員会・幹事会

・常設委員会

OR誌編集委員会 15回 国際委員会 2回
研究普及委員会 7回 表彰委員会 4回
普及小委員会 2回 IAOR委員会 2回
JORSJ編集委員会 2回

・その他の委員会・幹事会

庶務幹事会 7回 財政問題検討委員会 4回
フェロー会議 1回 副会長会議 1回
研究部会主査会議 1回 丸の内OR企画委員会 2回
OA化委員会 4回 40周年記念事業準備委員会 5回

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団より、研究委託を受け、同財団と研究委託契約を締結した。

6. 寄付金に関する事項

春・秋季研究発表会開催に際し、マツダ財団（10万円）、中国電

力技術研究財団 (20万円), 広島修道大学 (30万円), および埼玉県 (30万円) からそれぞれ助成金の交付を受けた。

7. 主務官庁の指示に関する事項

該当なし

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員		合計		
				A種	B種			
				平成7年2月末日	12		2,619	315
平成7年度	入会		95	109	7(7)	2(2)	213	
	移行	学→正		124	△124			
		正→学		△3	3			
		正→名	4	△4				
	退会		128	17	19(21)	11(11)	175	

除名		48	13			61
復活		3	2	2(2)		7
純増減	4	39	△40	△10(△12)	△9△(9)	△16
平成8年2月末日	16	2,658	275	138(165)	41(41)	3,128

() は口数

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A種	B種
本部	14	1,583	194	91(115)	23(23)
北海道		82	4	5(5)	
東北		95	5	7(8)	1(1)
中部	1	237	16	12(12)	1(1)
関西	1	372	38	14(14)	8(8)
中国・四国		147	8	4(6)	4(4)
九州		142	10	5(5)	4(4)
合計	16	2,658	275	138(165)	41(41)

() は口数

(第2号議案)

平成7年度収支計算書

収支計算書総括表

平成7年3月1日から平成8年2月29日まで

(単位:円)

1 収入の部					
科目	合計	一般会計	特別会計		
			数理計画法研究会	IFORS	APORS
基本財産運用収入	112,500	112,500	0	0	0
入会金収入	180,000	180,000	0	0	0
会費収入	54,585,550	54,585,550	0	0	0
事業収入	22,067,953	19,876,953	2,191,000	0	0
参加費収入	0	0	0	0	0
寄付金収入	0	0	0	0	0
その他収入	21,549,501	14,299,960	88,989	309	7,160,243
当期収入合計	98,495,504	89,054,963	2,279,989	309	7,160,243
前期繰越収支差額	22,028,956	18,935,070	2,812,274	0	281,612
収入合計	120,524,460	107,990,033	5,092,263	309	7,441,855
2 支出の部					
科目	合計	一般会計	特別会計		
			数理計画法研究会	IFORS	APORS
管理費	36,195,072	31,082,256	2,832	309	5,109,675
事業費	62,742,872	57,487,790	2,922,902	0	2,332,180
当期支出合計	98,937,944	88,570,046	2,925,734	309	7,441,855
当期収支差額	△160,828	484,917	△645,745	0	0
次期繰越収支差額	21,586,516	19,419,987	2,166,529	0	0
支出合計	120,524,460	107,990,033	5,092,263	309	7,441,855

(以下略)

平成8年度事業計画 (第3号議案)

戦後50年という大きな節目も過ぎ、21世紀の到来を目前に控え、世界の社会・経済情勢は大きく変化を続けている。更に情報ネットワークの急速な発達に伴い、世界の情報環境は一層の変化が予想される。本学会は、このような環境変化を踏まえて新しいオペレーションズ・リサーチを切り拓いて行かなければならない。

学会の運営にあたっては、変化する時代の環境に的確にしかも迅速に対応するとともに、オペレーションズ・リサーチを支える実践活動と理論的研究活動をバランスよく推進していく。また、創立40周年を来年にひかえた本年度は、中長期的な視点からもオペレーションズ・リサーチの基盤強化のための施策を検討していく。平成8年度における事業計画の概要は以下のとおりである。

1. 研究発表会

研究発表会を春秋2回開催する。

(1) 春季研究発表会

期 日：5月15日、16日(見学会は17日)

場 所：小樽商科大学新講義棟(北海道小樽市)

特別テーマ：インフラとしてのOR

(2) 秋季研究発表会

期 日：11月7日、8日(見学会は5日)

場 所：大阪工大摂南大学創立60周年記念館(大阪市旭区大宮)

特別テーマ：変革のOR

2. シンポジウム

シンポジウムを2回開催する。

(1) 第35回シンポジウム

期 日：5月14日

場 所：小樽商科大学(北海道小樽市)

テーマ：マルチメディアとその活用

(2) 第36回シンポジウム

期 日：11月6日

場 所：大阪工大摂南大学創立60周年記念館(大阪市旭区大宮)

テーマ：変革期の経営環境と意思決定

3. 特設研究部会(数理計画法研究会)

(主査：茨木俊秀(京都大学) 幹事：田口東(中央大学)、森戸晋(早稲田大学)、矢部博(東京理科大学)、山本芳嗣(筑波大学)、福島雅夫(奈良先端科学技術大学院大学)、石井博昭(大阪大学)、加藤直樹(神戸商科大学)、茨木智(京都大学) メンバー：30名)

月例研究会、RAMPセミナー(春 神戸)、RAMPシンポジウム(秋 東京)等の開催を通じて、数理計画法理論、応用、ソフト開発等に関する研究普及活動を行なう。また、会の運営にあたっては、若手研究者の育成のため、特別な配慮を行なう。

4. 研究部会・研究グループ

(1) 研究部会

次の17研究部会を設置する。(なお、年度途中で1部会に限り

発足を認めることとする。)

ア. 常設(2研究部会)

「待ち行列」 主査：町原 文明 (東京電機大学)

「OR/MSとシステム・マネジメント」 主査：太田 敏澄 (電気通信大学)

イ. 継続(10研究部会)

「意思決定とOR」 主査：菊田 健作 (富山大学)

「ファイナンスのOR」 主査：古川 浩一 (東京工業大学)

「評価のOR(DEA)」 主査：刀根 薫 (埼玉大学)

「ORリテラシー」 主査：高井 英造 (静岡大学)

「リエンジニアリング」 主査：梅沢 豊 (東京大学)

「離散系シミュレーション」 主査：中野 一夫 (懶構造計画研究所)

「高校生のためのOR」 主査：若山 邦紘 (法政大学)

「最適化モデル分析とその応用」 主査：岩本 誠一 (九州大学)

「COMのための生産計画・スケジューリング」 主査：村松 健児 (東海大学)

「広域インフラストラクチャー計画に関するOR」 主査：高森 寛 (青山学院大学)

ウ. 新設(5研究部会)

「最適化理論とその応用」 主査：石井 博昭 (大阪大学)

「マーケティング・モデル」 主査：守口 剛 (財流通経済研究所)

「オープンネットワークと情報活用」 主査：勅使河原可海 (創価大学)

「グローバル政策」 主査：片山 隆仁 (防衛庁防衛局)

「ファジィ動的計画法」 主査：小田中敏男 (北海道情報大学)

(2) 研究グループ

次の6研究グループを設置する。(なお、年度途中で発足を認めることとする。)

ア. 継続(3研究グループ)

「自動車市場の計量分析」 主査：国沢 清典

「高度情報化社会における交通・流通」 主査：忍田 和良 (朝日大学)

「電力OR」 主査：鈴木 道夫 (財電力中央研究所)

イ. 新設(3研究グループ)

「イノベーション」 主査：上田亀之助 (上田イノベーション研究所)

「組合せ最適化」 主査：片岡 靖詞 (防衛大学校)

「ORソフトウェア」 主査：八巻 直一 (システム計画研究所)

5. 普及活動、会員増強活動

- (1) 研究意欲の増進、最新知識情報の吸収を意図し講演会開催の積極化を図る。(本部数回、支部6回)
- (2) 学会の役割を内外にアピールするという広報活動の一環として、また事業としての位置づけに配慮しセミナー(講習会)を従来どおり2回開催する。
- (3) 賛助会員の増強を図るとともに支部活動の活性化に寄与するため、OR企業サロンを開催する。(本部5回および地方支部共催3回)
- (4) 学会の新たな発展と普及を図るため、創立40周年記念事業

計画を推進する。

- (5) その他学会活動の広報

6. 刊行物

次の刊行物を発行する。

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」(12号)
- (2) 論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(4号)
- (3) 研究発表会アブストラクト集(2回)
- (4) シンポジウム予稿集(2回)・セミナー テキスト(2回)
- (5) 研究部会活動結果の報文集等

7. 日本学術会議および他学協会との連携・協力

- (1) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会に委員を派遣し、その活動に参画する。
- (2) 経営工学関連学会協議会(FMES)に代議員を派遣し、その活動に参画する。(以下略)

8. 公益活動

学会の公益活動の一環として、官公庁、財団等の公的機関からの委託研究を積極的に受託するように努める。その他、高校生・一般市民に対するORの啓蒙活動を推進する。

9. 国際協力・交流

- (1) IFORS (International Federation of Operational

Research Societies)を通じて、各国のOR学会との交流、協力を図る。特に本年7月カナダ・バンクーバーにおいて開催の国際会議には視察団を派遣する。

- (2) APORS (Association of Asian - Pacific Operational Research Societies) を通じて、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会間の情報交換に積極的に協力する。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力する。
- (4) APJOR (Asia - Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力をする。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に積極的に協力をする。(以下略)

10. 支部活動

各支部において、研究会、講演会、見学会等を企画し、実施するとともに、会員対策について配慮する。

11. 表彰

文献賞、実施賞、普及賞、事例研究奨励賞(ソフトウェア部門賞を含む)および学生論文賞の選考・表彰を行なう。

12. その他

財政基盤の安定化に努めるとともに、事務局のOA化に配慮する。

平成8年度収支予算書

(第4号議案)

収支予算書総括表

平成8年3月1日から平成9年2月28日まで

(単位:円)

1 収入の部			
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計
			数理計画法研究会
基本財産運用収入	85,000	85,000	0
入会金収入	199,000	199,000	0
会費収入	51,468,000	51,468,000	0
事業収入	19,804,000	17,594,000	2,210,000
その他収入	11,603,000	11,578,000	25,000
当期収入合計	83,159,000	80,924,000	2,235,000
前期繰越収支差額	21,586,516	19,419,987	2,166,529
収入合計	104,745,516	100,343,987	4,401,529
2 支出の部			
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計
			数理計画法研究会
管理費	27,443,000	27,440,000	3,000
事業費	56,514,000	53,484,000	3,030,000
当期支出合計	83,957,000	80,924,000	3,033,000
当期収支差額	△ 798,000	0	△ 798,000
次期繰越収支差額	20,788,516	19,419,987	1,368,529
支出合計	104,745,516	100,343,987	4,401,529

(以下略)

(第5号議案)

平成8年度9年度役員候補者名簿

会務役職	定数	候補者	備考(非改選役員)
会長	1(1)	刀根 薫	
副会長	3(1)	山田 郁夫	平尾 信正 伏見 正則
庶務	2(1)	香田 正人	山田 善靖
国際	1(0)		高橋 誠
研究普及	2(1)	米田 清	鈴木 久敏
編集	2(1)	川島 幸之助	逆瀬川 浩孝
会計	1(1)	山口 俊和	
無任所	4(3)	生駒 憲治 黒田 充義 松山 久義	木村 俊一
監事	2(1)	矢島 敬二	山本 保

() 内は平成8年度改選数

(第6号議案)

平成8・9年度評議員候補者名簿

	氏名		氏名		氏名
1	阿南信博	26	今野 浩	51	平木秀作
2	石井博昭	27	齋藤嘉博	52	藤野義一
3	石川明彦	28	逆瀬川浩孝	53	伏見正則
4	井塚滋夫	29	三道弘明	54	松尾俊彦
5	伊藤忠雄	30	塩出省吾	55	松田武彦
6	茨木俊秀	31	新村秀一	56	真庭 功
7	伊理正夫	32	鈴木知巳	57	水野幸男
8	岩田 怜	33	高橋幸雄	58	御園生善尚
9	梅沢 豊	34	竹内 啓	59	六十里繁
10	大野勝久	35	田畑吉雄	60	村井 勉
11	大山達雄	36	田村坦之	61	村上周太
12	岡 久雄	37	時永祥三	62	森清 堯
13	加賀屋誠一	38	徳山博子	63	森口繁一
14	河合 一	39	千葉雅保	64	森戸 晋
15	川島幸之助	40	戸澤哲夫	65	森村英典
16	紀 一誠	41	中井恵一	66	柳井 浩
17	久志本 茂	42	中川覃夫	67	山下達哉
18	久野源三	43	中野一夫	68	山下 浩
19	黒井光男	44	中村隆志	69	吉山博吉
20	小池 清	45	行方常幸	70	米田 清
21	小金澤章吾	46	成久洋之		
22	腰塚武志	47	野口博司		
23	小谷重徳	48	野村淳二		
24	近藤次郎	49	長谷川利治		
25	権藤 元	50	鳩山由紀夫		

新時代のコンピュータ総合誌

隔月刊

Computer Today

偶数月18日発売/定価930円

9月号・特集 VRMLが拓く巨大情報空間

巨大情報空間への道/VRMLが拓く情報空間/
VRMLに動画を取り込む/地図情報のVRML化/
CyberPassageが実現する対話空間/Cosmosの概要

連載 新・アルゴリズムの工具箱 或る文明の終曲

月刊誌

数理科学

毎月20日発売/定価980円

9月号・特集

現代の特殊関数

リーマン・ゼータ関数
Jack多項式の物理
NewtonからMacdonaldまで q -解析入門
dilogarithm
パウルヴェ方程式
テータ関数
保型形式のみたす微分方程式
超幾何関数の幾何学的側面
特殊関数と有限体

黒川 信重
粟田 英資
三町 勝久
中西 知樹
渡辺 文彦
梅村 浩
大山 陽介
松本 圭司
小池 正夫

別冊・数理科学

B5・定価1900円

次元

- ☑ I. 次元とは何か
- ☑ II. 幾何学と次元
- ☑ III. 曲面と次元
- ☑ IV. 相対論と次元
- ☑ V. ミクロの世界の次元
- ☑ VI. 絵画と次元

〈数理科学・1996年6月号別冊〉 B5・定価1900円

数理科学における逆問題

C.W.グロエッチュ著, 金子・山本・滝口共訳
第1章・入門/第2章・第1種の積分方程式によりモデル化される逆問題/第3章・微分方程式に於けるパラメータの評価/第4章・逆問題の数学的背景/第5章・逆問題の幾つかの方法/第6章・逆問題の注釈付きの参考文献

サイエンス社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-25 ☎(03) 5474-8500
インターネットホームページ
<http://www.bekkoame.or.jp/~saiensu>